

平成31年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う人材を育成する学校 ・地域に貢献する学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○いばらき高等学校学力向上総合推進事業研究指定校として3年間の研究を通し、「わかる授業」を展開すべく校内相互授業参観、中学校での授業参観等を実施し授業の工夫・改善を推進し、成果が見られるようになった。しかし、目標とする家庭学習時間の達成には至っていない。そのため、今後は3年間を見通した指導法・指導体制の改善を図り、生徒の学習意欲を高めることで計画的に家庭学習を進め、学習時間の増加に繋げたい。</p> <p>○個別面談・日々のコミュニケーションを通して生徒と教員の信頼関係は構築されているが、発達に課題がある生徒やメンタル面で不安を抱える生徒の増加に伴い、スクールカウンセラーはもちろん専門家との情報交換を実施することが出来た。今年度も継続していく。</p>	授業の充実と学習習慣の確立	① 言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業の工夫・改善をし、「わかる授業」を展開するための公開授業の充実を図る。	B
		② 単位制のメリットを活かし、生徒各自の興味・関心・進路希望等に応じた科目を学習させる。特に、数学科・英語科および学校設定科目においては少人数授業を展開し、きめ細かな指導を充実させる。	B
		③ 自学自習の習慣化を図り、自主学習時間を増加させる。自主学習時間の目安を、1・2年次3時間以上、3年次5時間以上とする。	B
		④ 生徒の進路希望実現のため、平日・長期休業中における組織的・計画的な課外および全員参加による土曜課外を実施する。	B
		⑤ キャリア教育としての大学見学会や進路希望別ガイダンス等を実施する。	A
<p>○部活動加入率が高く活発に活動しており、多くの部活動で良い成績を残している。その反面、委員会活動においてはより自主的な活動を目標に支援していく必要がある。</p>	基本的な生活習慣の確立	⑥ 登校指導等を通して基本的な生活習慣の確立を図り、皆勤生徒数の増加を図るとともに、海高生として品位ある行動を確立させる。	B
		⑦ ・担任と生徒による個別面談を通して一人一人の悩みや不安に寄り添い、生徒理解に努める。(年間3回以上) ・教育相談体制を充実させ専門家の積極的・効果的な活用と関係機関との連携に努める。	A
<p>○地域貢献としてのボランティア活動に部活動単位・個人単位で参加している生徒が増えつつある。より積極的な活動が期待される。</p>	特別活動の充実	⑧ ・部活動やホームルーム活動、学校行事を通して、明るく豊かな健康作りや体力作りを実践し、生涯にわたりスポーツに親しむ態度を育成する。 ・HR活動・生徒会活動・各種委員会活動の活性化および自主的な活動を支援し、実践力を高める。	B
<p>○積極的な広報活動により、志願者が増加している。保護者からの信頼も厚く、学校行事にも協力していただいている。広報活動をより充実させ、さらなる信頼へとつなげたい。</p>	保護者・地域との連携の推進	⑨ ・学校説明会、ホームページの定期的な更新および広報紙等を通して情報を積極的に発信する。 ・地域との連携を推進し、生徒の積極的なボランティア活動を推進する。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	国語を適切に理解し、表現する能力を育成する授業を実践する。	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②③④	B	B ・国語の学習に関して受け身の姿勢の生徒が多く、暗記型の学習に頼ってしまい、論理的に理解しようとする姿勢や意欲に欠ける傾向の生徒が多い。基礎基本事項の確実な定着とともに、身につけた知識の活用をおとして達成感が得られるような学習活動を設定し、主体的な学習意欲の向上につなげていきたい。 ・授業への積極的な参加を促すために、生徒が主体的、能動的に活動することはもちろん、対話や討論などをおして相互に交流する授業形態の工夫や、適切な教材の活用について一層の研究を図りながら、同時に共通テストへの対応を図っていきたい。
			授業形態を工夫し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。 ①②③	B	
			既習教材の要約を通じて、文章構成を意識して評論文を読解する力を養う。 ①②	B	
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。 ①②	B	
	地歴公民	主体的・対話的で深い学びを実践し、現在の活動内容の進化を図る。	視聴覚教材を積極的に活用し、授業の効率化と授業内容の多様化を図り、生徒の学習意欲を高める。 ①②③	A	B 指導要録の改定及び必修科目「歴史総合」「地理総合」「公共」の新設を考慮し、教授・評価方法などを検討する。新しい入試システムおよび問題へ対応するために、基礎学力の定着と思考力の向上を意識した指導。
			授業及び教科外活動や小テスト等で基礎学力を定着させ、過去の入試問題を多用し、応用力を養成する。 ①②③⑤	B	
	数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別少人数指導やグループ学習を使い分け、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	A	A 習熟度別少人数指導やグループ学習を使い分け、学習意欲を喚起できた。しかし、大学入試共通テストを意識した授業展開や考査の作問を、今以上に意識していく必要がある。 応用力の養成をどうしていくのか、教科として柱をもって指導していく必要がある。
			教科内で教材、指導法等について研究する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着を図る。大学入試共通テストを意識した授業展開を検討する。 ①②③	B	
		上位層の育成を図る。	習熟度別少人数指導やグループ学習と平日課外、土曜課外、個別指導等を活用し、応用力の養成に努める。 ①③④⑤	A	
	理科	基礎力の定着を図り、起伏がありわかりやすい授業を展開する。	学習内容が関連して理解できるよう、わかりやすい授業を構成して実施する。さらに、小テストやレポート等を課し、普段の授業理解を確認する。 ①③	B	B わかりやすい授業を行えるよう教科内の研修を実施していきたい。また、実験・アクティブラーニングを更に充実させ、分かりやすい授業を目指す。
			演示や考察を含めた実験、デジタル教材やアクティブラーニングなどを導入し、起伏ある授業を展開する。 ①	B	
	英語	学力向上につながる授業・課題・課外を工夫し、基礎力の定着・応用力の育成を図る。	ICTを活用し、アクティブラーニングを取り入れ、主体的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 ①②③	B	B 少人数授業のメリットをさらに生かせるよう工夫改善が必要。4技能のうちのスピーキング・ライティングの強化をどのように実施し、評価していくか、入試改革と合わせて考えていく必要がある。生徒の自主的な学習意欲の育成。
			少人数授業や課外授業を活用し、4技能強化を図るためのアウトプット活動や習熟度別指導などを取り入れ学力向上を図る。 ②③④	B	
			模試をはじめ、GTECや英検など外部検定試験に向けて指導体制を整え、成果が得られるようにする。 ④	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	保健体育	基礎的運動能力, 体力の向上を目指す。	持久走の単元を生かして, 有酸素運動能力の向上を目指す。①②	A	A	本校生徒の体力・運動能力は高い。しかし, 1年次生の体力値が男女ともに低いという結果が出ているため, 継続して特に筋力向上に努めたい。また, 新学習指導要領への移行に備えて, 多様なスポーツとの関り(する・みる・ささえる)を授業の中に組み込み, 評価する体制を整える必要がある。
			体ほぐし及び身体づくりの運動を積極的に取り入れ, 上肢と体幹の筋力, 走力の向上を目指す。①②			
		主体的に体育・スポーツに関わる習慣を身につける。	運動と健康のつながりを理解させるとともに, 選択授業の中で生徒主体の活動を促し, 運動習慣の定着を図る。また, 国体に向けて1年次の単元でハンドボールを実施し, 地域の特性に応じた展開を図る。①②	A		
教科	芸術	芸術の諸能力を伸ばし, 芸術文化についての理解を深め, 生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	鑑賞の時間を充実させ, 創造的な能力を高める表現の学習課題を工夫する。生徒の個性を重視した少人数指導により, 個々の生徒の感性を伸ばす。①②	B	B	特に鑑賞の充実を継続して行いたい。日常生活や社会と芸術とのかかわりを意識できる授業を目指す。映像資料が使いにくいなどの環境面も整えていきたい。
	家庭	これからの時代を生きる生徒が希望を持ち, たくましく, よりよく生きる力を身につけることを目指す。	生活に必要な知識, 技術を身につけて自立し, 異なる世代の人たちと共生する意識を養う。①③⑤⑨ 生活する上での様々な課題を主体的に理解させ, 持続可能な社会をつくる一員としての意識を高める。①③⑤⑨	B	B	授業で身に付けた知識・技術を生かし, 生活の中での課題を解決できるような実践力を身に付けられるような授業を目指す。
	情報	情報活用能力の向上を図る。コミュニケーション能力の向上を図る。	実習を多く取り入れ, 情報リテラシー能力やコミュニケーション能力等の情報活用能力を向上させる。プログラミング等で自らの発想を反映することのできるICT活用能力の向上を推進する。①②	A	A	「情報」の免許所持が1名(臨時免許)で, 他2名は免許を有していない。教科である以上資格を持った教諭の配置があるべきでは無いか
教務	授業の充実による学力向上	「わかる授業」を展開するために授業の工夫や指導体制の改善を行い, 「校内相互授業参観」週間を充実させるなど, 研修体制を整える。校外で行われる研修会へも積極的に参加するように促し, 授業改善へとつなげる。①②	B	B	・中学校や小学校への授業参観を多く設定し, 教員の意識高揚を図る。また学校訪問をして義務教育学校との情報交換を積極的に行う。 ・新しい学習指導要領に関しては, その内容などに関して更なる検討が必要。 ・『業務の公平・分担』という意識が高まってきたとは言え, もっと効率を図ることが必要である。 ・広報活動するにあたり, 水海道一高の魅力が何かを再度検討する必要がある。各年次や分掌, 教科に対し, 新たな試みを考案してもらえるように働きかける。 ・HP作業の分担を推進し, 更新の迅速化を徹底する。	
	適切な教育課程の編成	次期学習指導要領を見据えた教育課程計画, 単位制のメリットを最大限生かせる指導法や評価方法等について, さらに研究を進める。②	B			
	生徒個別面談の充実	業務の効率化をさらに推進し, 面談時間を確保できるように支援する。⑦	A			
	入試広報活動の充実	学校内外の「学校説明会」の場を利用し, 中学生・保護者の本校への興味・関心を高める。管理職や部長職以外の教員の中学校・塾訪問を今まで以上に推進し, 本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。⑨	A			
	地域との連携を目指した広報活動	ホームページの充実と積極的な情報発信に努める。⑨	B			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	服装・頭髮指導の徹底を図るとともに, 時間を守ることができる生徒を育成する。⑥	B	B	・交通ルール遵守を徹底する。特に登下校時のマナーについて指導の行い方を再検討する。 ・頭髪や服装, 携帯電話の使い方などのマナーについても指導の徹底が必要。	
	マナーの向上(交通・挨拶等)	交通マナーアップ運動や交通安全教室等を通して交通マナーの向上に努める。⑥	B			
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通してマナーの向上とコミュニケーションの充実を図る。⑥	A			
		スマートフォンの利用のルールを設定し, 校内での使い方やSNSのトラブルに巻き込まれないよう注意を促す。⑥	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	年次と連携し、ブリティッシュヘルズ語学研修、大学出前授業、大学見学会、進路希望別ガイダンスなどの進路関係行事を実施する。また事前・事後指導の充実を図り、進路意識を高める。	⑤	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育のさらなる推進 →生徒の実態に即した進路行事の見直し、事前事後指導の充実 ・学習量調査の活用 ・模擬試験・検定試験・センター試験の分析を通じた指導の改善とノウハウの継承 ・志望大学への合格率の向上 →生徒のキャリア形成にマッチした、第一志望大学への合格に導く進路指導の検討 ・新入試制度・高大接続関係への対応と生徒・保護者への情報提供
		自主学習時間を記録することで自身の学習量を把握させるとともに、担任・教科担当者による意識づけを継続して行うことで、学習時間の確保・増加を促す。	④	B	
		課外授業(平常・土曜・長期休業中)の充実、および模擬試験・検定試験の有効活用(データの分析から指導の改善)を図る。	③	B	
		校内外の様々な企画(大学公開講座、サイエンスキャンプ、宿泊研修など)への積極的な参加を促す。また自身の活動履歴(ポートフォリオ)を継続的に構築させる。	⑤	A	
進路情報の活用	多様な入試制度、今後の入試改革などの情報を収集・整理し、生徒・保護者・教員間で共有を図る。HR、面談、集会、講演会、分析会、進路だよりなどで情報を提供していく。	⑤	B		
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事では、生徒会の自主的、自発的な活動を尊重し、生徒が自ら考え、計画立案ができればよいとする。また、学校生活の充実と向上を図る活動も行う。	⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員の人数設定 ・亀陵祭での生徒会、亀陵祭実行員、亀陵祭委員会、各種委員会、クラスの連携 ・一般生徒のボランティア活動の普及 ・定期戦の優勝と職員との役割分担 ・壮行会の見直し(基準、会場等) ・年間をととした委員会活動
		各種委員会では、校内活動を中心に、学校生活をよりよくするための活動を行う。	⑧	B	
	ボランティア活動をととした社会参画	ボランティア活動をととして、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。	⑨	A	
		茨城国体での活動を積極的に行い、本大会での運営サポートができる体制を整える。	⑨	A	
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングを要する保健室来室者が昨年度同様増加しているが、カウンセリングするための物理的環境が整わない状況が続いている。保健室以外の学習室や静養室の確保が望まれる。また、カウンセリングの予約過多ともいえる状況の中で、緊急性のある生徒への対応、多様化・複雑化する相談内容への対応などについても早急な検討の必要がある。 ・ごみの分別ルールの理解が教員・生徒共に不十分である。年度初めにおける説明の場が必要である。 ・防火防災訓練の実施については、実施後に寄せられた意見を参考に授業時間の確保を第一に企画していきたい。
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。	⑧	A	
		防火防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。	⑧	A	
	教育環境の美化	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。	⑧	B	
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。	⑧	B	
	生徒厚生の充実	各種奨学金の周知及び申請事務等を迅速に行う。	④	A	
		パン販売・自動販売機等の運営を円滑に行う。	⑧	A	
	メンタルヘルスケアの充実	スクールカウンセリングを定期的 to 実施し(年30回以上)、生徒及び保護者の精神的支援に努める。	⑦	A	
		カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。	⑦	A	
	特別支援体制の充実	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。	⑦	A	
学校HPやSC通信活用して、特別支援者への理解と周知を図る。		⑦	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
渉外	PTAの活性化を図る	PTA総会・支部総会等の出席率をアップさせ、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したPTA活動の実施に努める。	⑨	B	PTA支部総会・歩く会の支部協力の実施の仕方を再考する。	
	各行事の充実	各行事等における保護者への積極的な呼びかけにより(HPの活用)、保護者の意識を高める。	⑨	B		
図書	図書環境と出版物内容の充実	常時開放・常時閲覧。パソコンでの蔵書管理により良書・新刊図書の紹介を円滑に行い、読書や調べ学習を援助。センターホールや年次フロアの有効活用。亀丘時報・済美の発行。	⑤⑧⑨	B	B	パソコンを購入し、蔵書管理を行う。図書・出版委員の活動を活発化。年次フロアの活用。移動図書館の設置。『図書だより』を発行し書籍を紹介。
第1年次	基本的な生活習慣の確立	学校生活の規律を徹底し、規則正しい生活が送れるようにする。	⑥⑦	A	B	頭髪・服装の乱れもなく生徒は概ね規則正しい生活をしている一方、スマホの利用について最低限のルールとマナーを守れない生徒への対応が必要である。
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。	⑥⑦	B		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切にす姿勢の徹底を図るとともに、classiを利用して生徒の学習状況を年次全体で把握し、学力の向上を図る。	①～④	B	B	英数国を中心に課題提出や小テスト等を行うことで、基礎学力の定着した生徒が増加したことがうかがえる。また、考査前などでは学習時間は増加しているものの、平常時の学習時間が少ないなど学習習慣が確立していない生徒も多く、学習することの意義を理解させるための継続的な指導が必要である。
		家庭学習時間の少ない生徒には主任面談等を行い、学習意欲の喚起を図る。	①～④	B		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた集会や学習会を実施し、学力上位層の育成を図る。	①～④	A		
	適切な学習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。	①～④	B			
自己理解の深化と将来像の明確化	進路指導の中で自己理解の深化を図り、将来像を明確にする。	⑤	B	B	行事等を通して、多くの生徒に進路意識の向上がうかがえるが、各クラスに数名ずついる将来が見えていない生徒への指導が必要である。	
	総合的な探究の時間(「道徳」)やLHRを計画的に進め、将来の進路実現に向けて考える機会を数多く作る。	⑤⑧	A			
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	個別面談により進路希望を把握するとともに個に応じた学習・進路指導を展開する。	④⑤	A	B	自分の生き方、あり方について考えさせる面談を実施することができた。担任の先生方の負担を考慮しながら、面談機会をさらに増やせるような仕組みを検討していきたい。
		学力に応じた課外授業や補習授業を展開することで、高い進路目標を設定させるようにする。	④⑤	B		
	学習スタイルの深化	それぞれの学習状況を把握し、予習・授業・復習のサイクルを徹底させる。	①～④	B	B	学力層毎に工夫した学習指導がなされ、この2年間各教科で指導してきた学習スタイルが確立できた生徒は学力が向上している。ただ、家庭学習習慣が確立できていない生徒が多く、家庭学習時間の絶対量は年間を通して少なかった。今後、大学入試に向け主体的な学習ができるように継続的な指導が必要である。
		成績中上位層に応じた学習指導を行い、学力を向上させる。	①～④	B		
		成績下位層の生徒や学習時間の少ない生徒に対して、学習意欲の高揚を計る。	①～④	B		
		課題を課すことで、主体的に学習する時間を確保する。	①～④	B		
自律ある学校生活の育成	2年次として後輩の規範となるべく自覚を促し、学校行事やHR・生徒会・各種委員会活動に積極的に参加させる。	⑧	A	B	学校行事や部活動、委員会活動など積極的に活動した生徒が多かった。時間厳守の行動ができない生徒とスマートフォンのマナーが守れない生徒への改善指導が必要である。	
	保護者との緊密な連帯を図り、それぞれの進路実現に向けて生活習慣を再構築させる。	⑨	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
第3年次	進路希望の実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を通して、生徒1人ひとりが抱えている課題を把握しながら、最後まであきらめない指導を展開する。 ④⑦	A	推薦入試(国公立大学)の指導体制をもっと早くからするべきであった。近隣の国公立大学以外も検討してもよかった。 意欲的に学習しようとする生徒は増えたが、学力の向上には至らなかった。国公立の二次力や難関私立大学が合格できる学力をつける指導体制を整えて指導すべきであった。 茨城大学を含めた地方国公立の良さを保護者も含めてもっとアピールしたほうがよかった。	
		学習状況を把握し、計画的・主体的な学習スタイルの確立を目指す。 ①③	B		
		生徒それぞれの学力を把握し、それぞれの層にあった課外や個別指導、進路行事を効果的に行い、学力の向上を促す。 ②④	B		
		教員間での情報共有に努め、目標を合わせる。志望校分析会を行い、年次全体で生徒を見ていく姿勢で対応する。 ⑤	B		
		保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け、連携を深める。 ④⑨	A		
	自律ある学校生活の育成	最終年次としての誇りと責任感を自覚し、学校行事への積極的な参加やHR活動や部活動の充実を図る。 ⑥⑦⑧	B		部活動や学校行事等には3年次として積極的に活動できたのではないかと思われる。 受験生としての生活習慣の確立は出来ていた生徒が多かった。推薦入試で早々と決まった生徒もきちんと出来ている生徒は多かった。
		生活習慣の見直しを常に考えさせ、受験生であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを意識させる。 ⑥⑦	B		
		面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心がけ、関係各部と連携し解決を図る。 ⑦	A		

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60~79%) C:やや不十分(達成度40~59%) D:全く不十分(達成度39%以下)